

※ 本コラムは、共同通信社より配信されたものです。

## 水資源も企業の課題に

### 使用量抑え汚染防ぐ

原料調達から生産、廃棄、再利用の一連の過程で排出される二酸化炭素の量を商品に表示する仕組みを「カーボンフットプリント」と言います。同じように、製品の生産から消費までに使われる水の総量を示す「ウォーターフットプリント(WFP)」が、最近注目されるようになってきました。水資源の汚染や枯渇が世界各地で深刻な問題になっているからです。

生産段階での環境への悪影響を抑える活動は、電子機器メーカーなどが熱心です。海外では、水の使用量に着目した衣料会社の動きもあります。例えば綿のTシャツ1枚をつくるのに使用される水は2700リットル以上とも言われます。生地洗净や染色などに大量の水が使われるためです。染料の混ざった水をしっかり浄化せずに流すと川や海の汚染につながります。

欧州では、汚染水処理の方針を明示するよう求めたり、水資源の管理についての情報開示を求めたりする株主も登場しています。

水資源の保全に役立つ高い技術を持つ日本企業があります。1889年に福井県で創業した染色加工大手のセーレンは、コンピューターを使った独自の生産システム「ビスコテックス」を開発し、環境への悪影響を減らしています。

大量の湯に染料を溶かして着色する従来手法と異なり、デザイナーの描いた図柄をそのまま布に写していく技術で、水やエネルギーの使用量をそれまでの加工方法の5分の1～20分の1に抑えました。表現できる色も従来の10～20色から1677万色に飛躍的に増えました。水資源の保全と技術革新の両面で企業価値を高めた事例になっています。(株式会社グッドバンカー)